

秋空の下、体験林業を開催

令和8年10月5日（日曜日）に、外ヶ浜町の矢櫃山国有林（社会貢献の森）において、間伐材で作成したゴミ集積ボックスの設置など、間伐材のPRにもご協力いただいている沖館地域緑の募金推進協力会による「令和8年度沖館地域緑の募金推進協力会体験林業」が開催され、同会員やヒノキアスナロ緑の少年団等25名が参加しました。当イベントは郷土の緑豊かな環境づくりの一環として、また会員の森林・林業等の知識向上に資することを目的として実施されているものです。

当日は、秋晴れの空を白鳥が渡っていく姿が見られ、白鳥の初渡来を思わせる光景に参加者から歓声が上がる場面もありました。

開会式では、ヒノキアスナロ緑の少年団相馬会長の挨拶と小笠原少年団長の決意披露が行われました。その後、作業時の安全指導と植付指導を行い、いよいよ体験林業がスタートしました。



相馬会長挨拶



小笠原少年団長決意披露



菅原氏安全指導



工藤氏植付指導

体験林業では、ディブルという専用の道具を使い、スギコンテナ苗200本を植えました。時折土が硬く穴を掘りにくい箇所もありましたが、全員で協力し丁寧に植えることができました。



スギコンテナ苗



ディフル



植付の様子①



植付の様子②

今回使用したコンテナ苗は、従来の裸苗と比べて植付作業のコスト低減や苗木生産の効率化に期待でき、低コスト造林の推進に重要だと考えられています。詳しくは「[コンテナ苗基礎知識](#)」をご覧ください。

今回の体験を通して、自然とふれあう楽しさと林業の大切さを知ってもらい、皆さんが植えた苗木とともに、森を大切に思う気持ちが大きく育っていくことを願っています。また、お忙しい中体験林業にご協力いただきました青森県森林組合連合会様、ありがとうございました。

青森森林管理署では、地域の皆様が森林とふれあいながら森林づくりに参加できる機会を提供する団体とともに、このような取り組みを進めてまいります。

青森森林管理署 業務グループ